アウルのひ・み・つ 第19回

ユニフォームのリニューアル

9月1日から職員のユニフォームが新しくなりました。色は介護職員が水色と紺、看護師が白と紺で、アウルの職員とわかるように袖と胸に刺繍でロゴマークを入れました。

デザインのリニューアルにあたっては職員の希望も聞き、タータンチェックをアクセントにしました。ご入居者様からは「若々しく見える」と好評です。

ユニフォームは、記念すべき第1回「アウルのひ・み・つ」で取り上げた話題でした。5周年を迎えた今年、新調したユニフォームで気持ちも一新。初心にかえり、旅するように暮らしていけるアウルコート真駒内を創っていきます。

スタッフ リレーエッセー

小さな積み重ね

介護職員　吉岡美樹

私は年に一度友人の子供に会いに行っています。その子は私に福祉で働くきっかけをくれました。障がいをもって生まれ、今、中学生です。今回会いに行った際、初めて学校を見学させてもらい、彼女のできることがまた増えていて驚きと嬉しさでいっぱいになりました。幼少期からこれまでの彼女の成長ぶりは目を見張るものでした。彼女の努力や周りのサポートがあってのことだと思います。

入職して約半年の私は、できないことばかりで落ち込むこともしばしば…。でも、そんな彼女を見て、ご入居者様からの嬉しいお言葉やスタッフの皆さんから学べる環境と、今できていることに目を向けて、自分を少し認めてみようと思いました。これからは、些細なことでもうまくできたなら自分自身を褒める。うまくいかないことは、明日ももう少し工夫してみる。日々、小さな積み重ねをして自分に自信をつけて、私も彼女のようにできることを増やし、成長していけるよう毎日を過ごしていきたいと思います。

どうぞよろしく!

▲生後約2カ月で見習い補として入職

いやし課に「りりこ」が配属されました

▲着任1カ月。生えかけの歯がむずがゆい!

ことばのトビラ

運営懇談会

ご家族にご入居者様の日々の暮らしぶりをスライドなどでお伝えし、アウルへのご意見やご要望を伺う場です。年4回程度と、一般的な施設よりも多めに実施して、皆様の声を大切にしています。

●介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)

アウルコート真駒内

〒005-0016　札幌市南区真駒内南町4丁目5-3

TEL.011-588-1122　FAX.011-588-1133

入居相談受付中 0120-916-768

交通機関
●地下鉄南北線「真駒内」駅下車
●じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗車(約5分)「南町4丁目」停下車(徒歩約4分)

アウルコート真駒内　検索　http://www.owlcourt.jp

Owl Court

ふくろうの家だより

その24 2012年11月

●発行／株式会社私の青い空
●編集／アウルコート真駒内広報室　〒005-0016　札幌市南区真駒内南町4丁目5-3　☎011-588-1122

2011年という時間

代表取締役　武田 治信

時間の感覚はその人の実際の年齢に反比例するといいます。歳を取ると時間が経つのが速く感じられるからでしょうか、今この時期に去年のことを少し思い出しています。

2011年には多くの著名人が亡くなりました。その中に私が特に関心を抱いていた方が3名います。お一人はスティーブ・ジョブズ氏。「技術が教養や人間性と結びついてこそ、人の心を動かすことができる」と語りました。とても良い言葉だと思います。そして、10月と11月に亡くなられた北杜夫氏と立川談志氏。ユーモアあふれる「マンボウ」シリーズから「楡家の人々」のような純文学まで幅広い小説を書かれた北氏は、歌人で精神科医でもあった齋藤茂吉の息子であることを隠していましたが、高校時代に読んだ父の歌集に感動し、反発が尊敬に変わったとのこと。娘でエッセイストの齋藤由香さんには「面白いことをする変なお父さん」と言われていました。毀誉褒貶(きよほうへん)の激しい落語家人生を生きた立川氏は、「芸とはパーソナリティーそのもの、落語とは人間の業の肯定」と説き、誰よりも語りの美学にこだわりました。評価を高めた名作「芝浜」では、金をもうけた夢の話を人情味あふれる語りで披露しました。また、「落語はイリュージョン(幻影、幻想、錯覚)だ」とも言い、「立川雲黒斎家元勝手居士(たてかわうんこくさいいえもとかってこじ)」という妙な戒名を自分で決めて、亡くなられました。

強力な印象を残しつつ、これから先いつまでも語り継がれる人物には深い感銘を覚えます。安らかにゆっくりとおやすみください。

ユニークな語りの講師から学んだ3時間
講演で得たことをアウルの力に

笑い、うなずき、理解を深める講演

8月29日(木)、全国有料老人ホーム協会北海道連絡協議会の主催で行われた市民ホールでのセミナーに、武田施設長をはじめアウルから5名が出席しました。

午前中は「安心したシニアの住まいを考える」と題された一般向けセミナー。その中で、アウルを含む全道10カ所の有料老人ホームの職員が、自身の施設を紹介しました。

午後は、生活とリハビリ研究所の代表で理学療法士の三好春樹先生が「介護とは何か～介護が果たすべき役割と方向性」の演題で講演をしました。豊富な経験と専門知識をもとに、介護について楽しく語る三好先生は、全国でひっぱりだこの人気講師で、著作も多数お持ちです。

この日も、ユニークな実例を挙げながら、ケースワークの7原則を論じ、認知症の高齢者との関わり方を説きました。会場には笑いが絶えず、ときに共感や感嘆の声がもれ聞こえました。「医療は客観性、介護は関係性。人間関係を壊してまで行うべき正しいことは介護にはない」「現実から離れたいとき、人は遠い地に旅して帰ってくる。認知症の老人は過去に旅して帰ってくる」。わかりやすい三好先生の言葉は、心にずしんと響きます。

講演での学びをアウルで実践

専門職としてすでに理解していることでも、三好先生がわかりやすく表現することで、「力になったり、気分が楽になったりするんです」と武田施設長。「日本の希望は介護職が担っている」と、介護職の楽しさや将来的展望を強調して終了した講演は、3時間の長丁場ながらあっという間に感じられました。

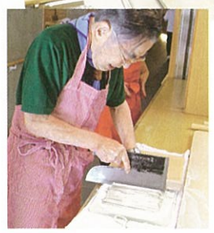
その後アウルでは、講演の際に購入した『童謡・唱歌ぬりえ帖』を使って、認知症の方のグループワークを行っています。ただ色を塗るだけでなく、明治・大正時代の歌を題材に思い出話ができるので、より高い効果が期待できます。講演内容は報告書にして全職員で共有し、出席者が講演で得た力は、着実にアウルで生かされています。

▲歌詞付きのぬりえに話も弾みます

▲アウルの女性陣が三好先生を囲んで記念撮影

▲講演会場では三好先生の著作をはじめ介護関連書籍を販売

アウルの四季彩々日記



アウルの野菜、新そばと、秋の味覚を満喫

「収穫の秋」「食欲の秋」。秋は食べ物がおいしい季節です。アウルでも、ついついお箸が進む行事で、秋を満喫しました。

9月5日(水)の昼食は、アウル農園で採れた秋野菜をふんだんに使った収穫祭バイキング。風味の異なる4色の変わりそうめんなど、新メニューも人気を集めました。

10月4日(木)の昼食は、毎年恒例の幌加内産の新そば。今年は手打ち実演にご入居者様が参加し、そば切りを体験しました。自ら手をかけたおそばはおいしさも格別でした。

●9/14(金)

敬老会に北大生が慰問

アウルの敬老会はボランティアさんの活躍も楽しみのひとつ。今回は北海道大学民謡研究会合唱団わだちの方々が、正調の歌と踊りと演奏で「ソーラン節」などを披露してくださいました。

●9/24(月)

アウルのお墓にお参り

藤野聖山園にあるアウル所有の共同墓に、将来はここへとお考えの方や興味のある方とお参りに行ってきました。お墓にまだお骨はありませんが、犬の石像の下にらんこが眠っています。